

# 第1学年 算数

## 第1学年の学習到達目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。

## 第1学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	もりにいこう	対応などの操作でものの個数を比べる。 10までの個数を正しく数えたり表したりする。	集合作り 対応による大小比較(大小・同数)
	1 10までのかず	身近な生活の場面から、10までのものの個数を数を用いて正しく表すことができる。 10までの数の構成と数の概念について理解する。	0~10までの数の読み方、書き方 数字と具体物や半具体物との対応 0~10の数の大小、順序、系列
	2 いくつといくつ 10をつくらう	ものの個数を数えることを通して数の意味について理解し、数を使うことができる。	5~10の数構成、分解
	3 なんばんめ	個数や順番を正しく数えたり表したりして、順序数と集合数の関連を理解する。 前後、上下、左右などのことばを正しく使ってものの位置を表すことができる。	順序や位置を10までの数を用いて表すこと 順序数と集合数の関係
	4 たしざん(1) あわせていくつ ふえるといくつ 0のたしざん たしざんのえほん	たし算について理解し、たし算を使うことができる。 1つの数をほかの数の和としてみることができる。	加法の意味(合併・増加)の理解 加法の関係を式に表す 和が10以下の加法の計算 たし算カード作り 0のいったたし算の計算 たし算絵本作り
	5 ひきざん(1) のこりはいくつ 0のひきざん ちがいはいくつ ひきざんのえほん	具体的な場面からひき算の意味について理解する。 10以下の数から1位数をひくひき算のしかたを考えて計算する。	減法の意味(求残・求差)の理解 減法の関係を式に表す 10以下の数についての減法の計算 ひき算カード作り 0のいったひき算の計算 ひき算絵本作り
	6 かたち	身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形に親しむ。 立体図形の特徴をとらえて仲間分けができるようになる。	立体図形の形に着目した仲間わけ 立体図形の特徴や性質の理解 集めた箱を使っただけの作品作り いろいろな形を写して、紙を切り取ったり、絵をかいたりする
	7 10よりおおきいかず 20までのかず 20よりおおきいかず とけい	ものの個数、数の系列や順序、数の大小の概念について理解する。 具体的な事物について、まとめて数えたり等分したり、それを整理して表すことができる。 日常生活の中で時刻を読むことができる。	10より大きく60未満の数の書き表し方と読み方 「一の位」「十の位」の用語と意味の理解 何時、何時半、何時何分の時刻の読み方
後期	8 たしざん(2)	(1位数)+(1位数)で和が11以上になるたし算の計算のしかたを理解する。 (1位数)+(1位数)のたし算の計算が確実にできるようになる。 1つの数をほかの数の和としてみることができる。	(1位数)+(1位数)でくり上がりのある計算 くり上がりのある加法の適用問題 計算カードを使った計算の練習
	9 ひきざん(2)	(2位数)-(1位数)の戻り下がりのある計算のしかたを理解する。 (2位数)-(1位数)のくり下がりのある計算が確実にできるようになる。 1つの数をほかの数の差としてみることができる。	(十の位)-(1位数)でくり下がりのある計算 くり下がりのある減法の適用問題 計算カードを使った計算の練習
	10 たすのかな ひくのかな	数量のちがいに目をつけて、たし算かひき算かを判断したり、ある数量を他の数量に置き換えて考えたりすることができる。	加法か減法かの演算決定 3口の数の加減計算

後期	11 ながさくらべ	ものの長さを比べることを通して、量とその測定のしかたを理解する。 長さを具体的な操作で比べる。 身近にあるものの長さを単位として、そのいくつかで長さを比べる。	長さの直接比較、間接比較 個別単位を用いての長さの表し方、比べ方
	おおきさくらべ	面積、体積を直接比べる。 身の回りにあるものの大きさを単位としてそのいくつかで大きさを比べる。	かさ・広さの概念、測定の基礎 (直接比較・間接比較・任意比較)
	12 おおきなかず	ものの個数を数えることを通して、数の意味について理解し、数を使うことができるようにする。 10 のまとまりをつくって、まとめて数えたり等分したりし、それを整理して表すことができるようにする。	100 までの数の唱え方、数え方、数字の読み方、書き方 2 位数の構成 100 までの数の系列、順序、大小
	13 1ねんのまとめ	1年で学習したことに進んで取り組み、学習のまとめをしようとする。 既習の数の構成や計算、測定のしかたを理解し、適切にできるようにする。	大きな数の数え方、数構成、系列 長さくらべ 加減計算 加法計算を使ったしりとり

### 評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【算数への関心・意欲・態度】 数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもとうとする。</p> <p>【数学的な考え方】 算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。</p> <p>【数量や図形についての表現・処理】 整数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、ものの大きさを比較したり身近な立体を観察したり構成したりする。</p> <p>【数量や図形についての知識・理解】 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量や図形についての理解の基礎となる経験を重ねている。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>多面的な評価 ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発言、課題への取り組みの状況、ノートの整理の仕方、自己評価、相互評価、毎時間の伸び、疑問、願いなど様々な面から評価します。</p> <p>自己評価の重視 学習の仕方や理解の程度など、自己評価も参考にします。</p>
--	--

### 特色ある学習方法

<p>(1) 授業では、児童の思考の援助として具体物やプリント等を用意して展開します。</p> <p>(2) すごろくや計算ゲーム等を行い、楽しみながら学習します。しりとり、言葉遊びなどのゲーム的な要素を取り入れ、楽しみながら学習をします。</p>
--

### 使用教材等

<p>教科書「さんすう 1年」(学校図書)</p> <p>ドリル</p>
--------------------------------------

### 留意事項

<p>(1) ノートの種類 最初は6マスのノートを使い、日常の学習、まとめなどに使います。</p> <p>(2) 家庭での学習にご協力をお願いします。 たし算、ひき算カードの計算がすらすらできることは理解につながります。機会があるごとに聞いてあげてください。毎時間の復習は確かな学力につながります。ドリル、学習プリントなど、ご家庭でも見てあげてください。そして、家族団らんの時間にお子さまの伸びを話し合うなどして努力を認めてあげてください。</p> <p>(3) 学習したことが実際の生活でも生かされるよう、家庭でもご協力をお願いします。 数字がいろいろなところで使われているのを見付けることは、1年生の学習の基礎になります。「新聞や広告」「身の回り」などのたくさん数字見付けをして「どんな意味を持つ数字なのか」ご家庭でも話し合ってみてください。算数の「よさ」がはっきり分かるのは、算数が実際の生活の中で有効に使えることを知った時です。そうすると、子どもたちは、積極的に算数を生活の中で生かしていると考えます。家庭での学習にご協力をお願いします。</p>
---